

資料 7

特別支援学校部会第 1 回推進本部報告資料

1 開催状況の概要

- (1) 日 時 令和 3 年 7 月 13 日 (木) 午後 3 時 30 分から午後 4 時 30 分まで
- (2) 方 法 Zoom によるオンライン会議
- (3) 出席者 特別支援学校部会員 7 名 全員出席

2 特別支援学校 ICT スキル習得体系表 (案)

特別支援学校においては、児童生徒の特性や障がいの程度を踏まえ、次の 3 ステップで到達目標を示す。

育成したいスキル等	ステップ 1	ステップ 2	ステップ 3
自分の意思を表出する。	・「快」、「不快」、「はい」、「いいえ」を、アプリや外部スイッチ等を使って伝えることができる。	・自分の持っている伝達手段に応じた方法 (アプリ, AAC 機器等) で、友達や教員とやり取りをすることができる。	・自分の持っている伝達手段に応じた方法 (アプリ, AAC 機器等) で、他者 (学校以外の人含む) と主体的にコミュニケーションをすることができる。
簡単なアプリの操作ができる。	・アプリや支援機器を使って、(外界の認識, 因果関係の理解)	・手順表を見ながら、アプリの立ち上げ, 終了の操作ができる。	・自分に必要なアプリを選択し, 適切に操作することができる。
文字入力ができる。	・おえかきソフトを使って描画することができる。	・指示された単語や文章を打つことができる。(時間制限なし。)	・指示された単語や文章を打つことができる。(時間制限あり。)
電子ファイルを整理して保存できる。		・電子ファイルの作成, 保存ができる。	・電子ファイルをカテゴリごとにまとめ, 整理, 保存することができる。
タブレットを使って報告や発表ができる。	・タブレット, AAC 機器等を使って, 行事や朝の会の進行をすることができる。	・タブレットを使って, 報告や発表をすることができる。	・タブレットを使って, 相手に分かりやすく報告や発表をすることができる。

インターネットの閲覧ができる。		<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味のある分野, また, 指示された内容についての検索をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて, 安全に情報収集をすることができる。
機器を適切に取り扱うことができる。		<ul style="list-style-type: none"> 機器を適切に取り扱うことができる。(準備, 片付け等) 	<ul style="list-style-type: none"> 機器を適切に取り扱うことができる。(置き場所に注意する, 丁寧に扱う等)
情報モラルを考慮した活動ができる。		<ol style="list-style-type: none"> ①教室でタブレットを使う時のルールを守ることができる。 ②インターネットの利便性, 使用時のマナー, 危険性について理解することができる。(トラブルから身を守る知識を身に付けている。) 	<ul style="list-style-type: none"> 危険な行為を判断, 行動することができる。自他の立場に立って物事を公平に考え, 行動することができる。
テレワークに必要とされるジョブスキル		<ol style="list-style-type: none"> ①見本通りに文章を作成することができる。(時間制限なし) ②アンケートの集計, 決められた書式へのデータ入力。(時間制限なし。) 	<ol style="list-style-type: none"> ①見本通りに文章を作成することができる。(時間制限あり。) ②アンケートの集計, 決められた書式へのデータ入力。(時間制限あり。) ③文字起こし作業をすることができる。(時間制限なし。)

3 重点目標

発達段階や障がい種別に応じたタブレットの日常的な利活用の推進
～みんなで「I (いつも) C (ちょっと) T (たのしい)」活用を～

4 教職員の取組例

共通項目	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の指導計画の作成にあたり、各障がい種ごとに、コンピュータ等のICTの活用に関する規定を示し、指導方法の工夫を行い、指導の効果を高める。
視覚障がい	<ul style="list-style-type: none"> 視覚補助具やコンピュータ等の情報機器、触覚教材、拡大教材及び音声教材等各種教材の効果的な活用を通して、容易に情報を収集・整理し主体的な学習ができるよう工夫する。 弱視の（見えにくい）児童生徒に対して、視覚情報をその児童生徒の見やすい文字サイズやコントラストに変換する。 <ul style="list-style-type: none"> ア タブレットの表示変換機能にある、拡大機能、白黒反転機能、リフロー機能を使い、見やすい状況を作る。 イ タブレットのカメラ・拡大機能を使い、板書事項、小さいもの、動いているもの等を撮影し、手元でじっくり確認したり観察できるようにする。 盲の（見えない）児童生徒に対して、視覚情報を音声（聴覚情報）や点字（触覚情報）に変換する。 <ul style="list-style-type: none"> ア テキストデータを点字データに変換したうえで、コンピュータ等に接続した点字ディスプレイに出力し、活用する。 イ 音声読み上げソフトやアクセシビリティの設定により、コンピュータ等の文字情報を音声で読み上げさせる。
聴覚障がい	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的に情報を獲得しやすい教材・教具や活用方法を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器を有効に活用する。 聴覚情報（周囲の音、音声）とそれが表す意味内容などの情報を視覚化する。 電子黒板や、大型ディスプレイを利用し、児童生徒の視線が教師やモニタ等に集め、話し合い活動の円滑化を図る。 クラウドベースの文字変換アプリケーションを利用し、発話をテキスト変換し、文字をタブレット等に表示させ、授業のやりとりを視覚的に理解させる。
知的障がい	<ul style="list-style-type: none"> 障がいの状態や学習状況、経験等に応じて、教材・教具・アプリケーションや補助用具などを工夫する。 抽象的な事柄を視覚的に理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> （例）視覚的に学べるアプリケーション等を使い、抽象的な概念理解を促す。 発話による意思表示を代替するアプリケーションを利用し、発話による意思表示が困難な児童生徒がアイコンを押すことでコミュニケーションを図る。 理解が困難な事項を視覚的に理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> （例）時計を読むことが困難な場合、残り時間を視覚的に把握することができるアプリケーションを利用する。
肢体不自由	<ul style="list-style-type: none"> 身体の動きや意思の表出の状態等に応じて、適切な補助具や補助装置を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用する。 身体機能の状態に合わせたキーボードやマウスの入力装置の代替として <ul style="list-style-type: none"> ア 画面上に表示されるスクリーンキーボード（入力支援） イ ジョイスティックやトラックボール、ボタン型のマウス（マウス操作支援） ウ 機能の一部をスイッチで支援（通常のスイッチ、音センサー、光センサー、屈曲センサー、呼気センサー） エ 支援機器を利用しやすくする固定具の利用。 オ Bluetoothで使える、キーボードやマウス、マイクやスピーカーの利用。 他者とのふれあいとして学校や地域を越えた遠隔合同学習で、協働学習を実施し、多様な考えや意見に触れ、自分の考えを確立する機会の創出。

<p>病弱</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身体活動の制限や認知の特性，学習環境等に応じた教材・教具や入力支援機器等の補助用具を工夫する。 ・学校と入院中の病院をつなぎ，学習支援アプリケーションを活用した同時双方型の授業を実施する。 ・録画した授業を体調に合わせて視聴し，レポート等をタブレット端末を活用して提出させる。
-----------	---

5 学校を取組例

<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルやセキュリティについての指導と検討。 ・学年末に，次年度に向けた情報活用能力年間指導計画の見直し。 ・障がい種別に応じた，アプリケーション活用について月1回程度の校内研修実施。 ・特別支援学校間での効果的な情報共有システムの構築。 ・タブレットを用いた公開授業の実施。（マスコミ等を通した県民への周知） ・Zoomを利用した活用実践。（テレワークでの就業体験，キャリア教育出前授業，卒業生との進路学習，外部講師とのコンサルテーション，体育祭文化祭の校内LIVE配信）
--

6 今後のスケジュール

- ・学校計画訪問での指導・助言（9月～3月）
- ・GIGAスクールサポート事業での校内研修支援（9月～3月）
- ・Webサイトでの情報発信（9月～3月）
- ・部会での進捗状況報告・指導・支援内容の改善検討（10月）
- ・校内Mini研修の実施（活用頻度を上げるための方策として）

アイ 実施期間（令和3年9月～令和3年12月）

- ① 各学校への依頼
 ② 各学校での実践
 ③ 校内Mini研修（様式1）
 ④ 授業実践
 ⑤ 評価

ウ 事務局で取りまとめ
 学校内Mini研修の例（学部の後半10分で実施）

- ① P a n g l (計画)
 ・学習グループ・クラス等で話し合いを実施
 ・端末を準備して実際にアプリケーションを使ってみる
 ・様式1の②「見込める効果」④「使用に当たって工夫した点」について話し合いを実施
- ② D o (実施)
 ・担当授業等でアプリケーションを使った授業実践
- ③ C h e c k (確認)
 ・様式1の③「実際の効果」を報告後に協議
 ・アプリケーションの有用性について検討する
- ※課題や困った点も貴重な情報として扱う。

【様式Ⅰ】

校内Mini研修

アプリケーション名	※ここに，アプリ名とアイコンを入れます。 (現在準備中)
アプリケーションの概要	※アプリの概要を入力しておきます。 (現在準備中)
①学習場面 ・教科等 ・学習形態 ・場所	() 一斉学習 () 協働学習 () 個別学習 () 学校 () 自宅
②見込める効果	
③実際の効果	
④使用に当たって工夫した点	
障がい種別	() 視覚 () 聴覚 () 知的 () 肢体 () 病弱
学部	() 小学部 () 中学部 () 高等部

※各学校よりリクエストのあったアプリケーションで実践していただきます。